

“白河を演劇の聖地に” 高校生版「劇王」、7日にプレ大会

日本劇作家協会の短編演劇競技大会「劇王」の高校生版「ハイスクール劇王」のプレ大会が7日、白河市民会館で開かれる。光南(矢吹町)と白河実(白河市)尚志(郡山市)葵(会津若松市)の4校が出場、熱のこもった舞台を繰り広げる。高校生版を発案した同協会員で光南の演劇部顧問を務める佐藤茂紀教諭(51)は、東日本大震災からの復興に向けて「演劇で県内に人を集めたい」と強調。「来年の第1回県大会、全国大会につなげ、白河を高校演劇の聖地にしたい」と意気込む。

劇王は同協会東海支部が企画、各地区に広がった。2013(平成25)年に10年目を迎え、発祥の地・愛知県で「天下統一大会」と称して全国大会が初開催された。同大会に出場経験のある佐藤教諭は、劇王の魅力を「短編で他の出演者の作品を見やすく、審査員の厳しい批評と一緒に受けることで仲間意識が生まれる」と語る。高校生版開催を提案したのも、生徒たちに友情の輪を広げてほしいとの思いからだ。佐藤教諭は、全国展開が実現すれば、震災復興にもつながると考えている。「演劇で福島に人を呼びたい。たくさんの人に福島に足を運んでもらい、復興の様子を実際に見てほしい」と力を込める。光南の演劇部員は、不慣れな脚本や演出に戸惑いながらも、本番に向けて準備を進めている。

(2015年3月5日 福島民友ニュース)



本番に向けて練習に励む光南高演劇部員＝矢吹町・光南高